

● ● ●

環境省における環境教育施策

- 化学物質の問題について取り組んだ事例を中心に

環境省総合環境政策局
環境教育推進室

尾崎 泰之

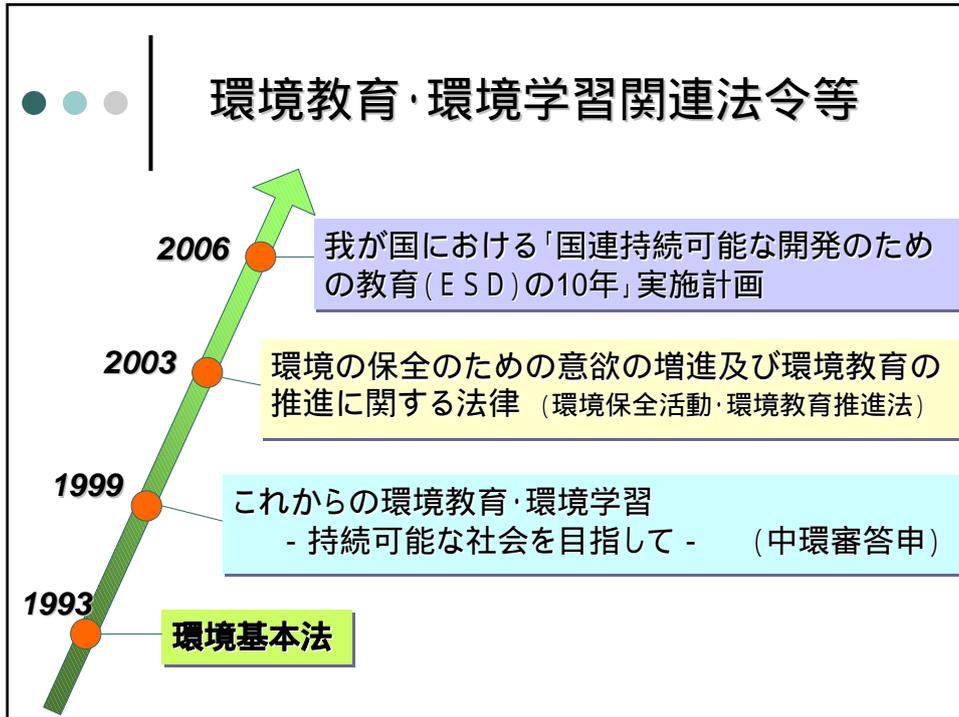


環境省
Ministry of the Environment

● ● ●

概要

- ・ 環境教育・環境学習関連法令等
- ・ 環境教育推進室の施策紹介
 - こどもエコクラブ事業
 - 環境カウンセラー活用促進事業
- ・ 国連持続可能な開発のための教育 (ESD) について



- ### 環境教育推進室の施策
- こどもエコクラブ事業
 - 環境カウンセラー活用推進事業

● ● ● | こどもエコクラブ事業 

- 子どもたちが地域の中で楽しみながら自主的に環境保全活動・環境学習をすることを支援
- H18.10末現在登録数 4,435クラブ 13万1,768人
- スターターキット(会員手帳、会員バッジ)やニューズレター等の配付
- 企業等の協力(パートナーシッププログラム)
- 活動成果を持ち寄る全国フェスティバルを開催
H19.3末に横須賀市で開催予定

**【活動事例】 こどもエコクラブ
浜松富塚中学校科学工芸部(静岡県浜松市)
活動①—大気汚染(窒素酸化物)の調査**

■調査内容

- ・平成17年度に「窒素酸化物(NOx)実測からわかる富塚の大気」の調査を実施。
- ・交通量の多い場所、山林が残っている場所、学区内で高低差がある場所等でNOxの量を調査。



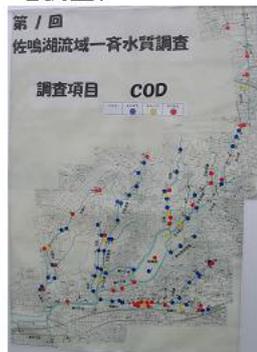
■調査結果

- ・雨が多量に降ると、その日と次の日はNOxの数値が下がる。
- ・風速が強いとNOxの数値が低くなり、風速が弱いと高くなる。
- ・NOxの数値は交通量よりも気温に影響を受けやすい。
- ・以上の結果から、NOxの数値に最も影響しているのは、風速である。

【活動事例】 こどもエコクラブ 浜松富塚中学校科学工芸部(静岡県浜松市) 活動②－佐鳴湖流域一斉水質調査

■調査内容

- ・浜松市が主催した「第1回 佐鳴湖流域一斉水質調査」に参加。
- ・各自、担当の場所のCOD(化学的酸素要求量)等を調査。



■調査結果

- ・住宅地、開発地に近づくほど、CODの数値が高い。
- ・CODの数値、つまり湖の汚染状況は、生活排水や工場排水の影響を受けていることがわかる。

身近な野生生物の観察事業について

『内分泌かく乱化学物質問題への対応方針』EXTEND2005

【取組体制】

- ①野生生物の観察
- ②基盤的研究の推進
- ③影響評価
- ④情報提供とリスクコミュニケーション等の推進

水沢エコキッズについて



水沢エコキッズについて

- ・ 自治体が募集しているクラブです。
- ・ 市職員が代表サポーターを務めています。
- ・ 市の環境教育事業の一つとして位置づけられています。
(市の予算が措置されています。)



コンクリート製ではない水路で、網を使って生き物を捕まえています。



マツカサガイ

オニヤンマの
幼虫



生き物の種類と数を確認しています。



いろいろな生き物が見つかりました。

環境カウンセラー活用推進事業

○ 環境カウンセラーとは

環境保全に関する専門的知識や豊富な経験等を有し、環境保全活動に関する助言等を行うことができる人材として、環境省の行う審査を経て登録

○ 登録人数 3,856人（平成18年4月1日現在）

事業者部門2,350名 市民部門1,774名（両部門268名）

○ 環境カウンセラーのサイト

<http://www.env.go.jp/policy/counsel/>

- ・各カウンセラーの活動実績等を公開
- ・専門分野、地域等で検索することが可能
- ・各都道府県の環境カウンセラー協(議)会の情報

環境カウンセラー個人としての取組



市民向けの講演会の開催



勉強会の開催



化学物質の専門家として意見

環境カウンセラー協会等、団体としての取組

環境保全講習会のご案内

“化学物質と私達の生活との関わりを

考えてみませんか”

さいたま環境賞受賞記念

NPO法人埼玉環境カウンセラー協会第20回環境保全講習会

| | |
|----|---|
| 日時 | 平成16年11月20日(土) 午後1時～5時 |
| 会場 | 行田市教育文化センター「みらい」第1学習室 (行田市地蔵2丁目24番7号) |
| 内容 | <p>○講演 1. 「化学物質とみんなの暮らし」 講師：埼玉環境防災部化学保安課 副課長〈有害化学物質担当〉 保科 弘 氏</p> <p>2. 「岩綿電気の取り組み(有機珪素の低減について)」 講師：岩綿電機 光太郎工業部 次長 水下 登 氏</p> <p>3. 「化学物質問題市民研究会」の活動 講師：研究会副代表 岸上 啓 氏</p> <p>○パネルディスカッション(化学物質情報の取り扱いを主に) コーディネーター：埼玉環境カウンセラー 事業部門 川口 尚文 パネラー：上記講師及び 環境カウンセラーズぐんま 市民部門 平岡 真智子 氏</p> |
| 定員 | 100名(無料・先着順) |
| 主催 | 特定非営利活動法人 埼玉環境カウンセラー協会 |
| 後援 | 環境省、埼玉県、行田市、熊谷市、羽生市、吹上町、栗宿町、熊谷商工会議所、埼玉県中小企業振興公社、環境カウンセラーズぐんま(財)サイゼン環境保全基金(順不同、いずれも予定・申請中) |



持続可能な開発のための教育

Education for Sustainable Development

持続可能な開発(Sustainable Development)とは

- 将来の世代のニーズを満たす能力を損なうことなく、現在の世代のニーズを満たすような社会づくり
- 「環境の保全」、「経済の開発」、「社会の発展」を調和の下に進めていくことが重要

持続可能な開発のための教育(ESD)とは

- 新たにESDという教育(活動)を行うのではなく、既存のあらゆる教育活動に「持続可能性」や「持続可能な開発」といった概念を盛り込む

詳しくは、「持続可能な開発のための教育の10年」推進会議(ESD-J)のHP <http://www.esd-j.org/whatsesd/> を参照



ESDの実践例

愛媛県松山市：えひめグローバルネットワーク

放置自転車からみえる自分・地域・世界のつながり

アフリカ紛争地での武装解除のために、松山市にあふれる放置自転車を送り、武器回収に役立っている。この活動を通して、身近な地域の交通状況、大量消費・廃棄の問題を見つけ直し、世界の問題への関心を育てている。

自転車などの生活用品と武器を交換し回収。武器は現地警察により処理される



鹿児島県串良町柳谷集落

イモづくりから始まった村おこし

過疎高齢化が進む村で、高校生12人が始めたカライモ栽培が、集落全体で営農できるしくみをつくり、村の収益性を高め、高齢者宅の緊急警報装置を設置するなど、地域経済・社会の発展に結びついた。さらに村人総出で土着菌センターを建設するなど地域を元気にしている。

高校生が動けば、大人も、地域も動き出す！



現在、環境省では、「国連持続可能な開発のための教育の10年促進事業」において、全国10の地域(団体・事業)を採択し、地域に根差したESDの活動・取組を支援している。今後は、これら地域での実践を取りまとめて発信し、全国に普及させる。

詳細は、<http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=7621>



ご静聴ありがとうございました

各施策については、

総合環境政策局環境教育推進室

03 - 3581 - 3351

<http://www.env.go.jp/policy/edu/index.html>

まで